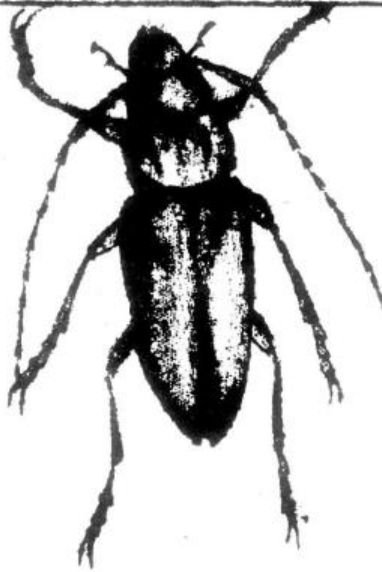


MUSHI NO TOMO

蟲 純 友

VoL.1 No.1



Triteriotoma danidi farmosana Kriesche

1 9 4 7

鹿兒島昆虫同好會

目 次

ほしがき	(1)
新巻足に当りて	竹村芳夫(2)
尤支の人食ひ「バツタ」に就いて	坂元久米雄(4)
昆虫の思ひで	谷口 眞(6)
表紙「ウツカタモドモ」の解説	(8)
虫への思ひ	御園智生(9)
同好会結成に当り	牧野憲一(10)
懐員後縁の城山に訪れて	内 貞雄(12)
雑 感	坂上勝巳(13)
北支の人氣者「マオシゴカネ」觀察記	坂元久米雄(14)
懐しき採集日記より	本吉健作(15)
鹿児島昆虫同好会結成に当り	佐々木 博(16)
同好会創立を祝して	藤井清瀧(17)
終戦後の山野を歩いて	本吉健作(18)
創刊号を祝して	内 定雄(19)
終戦後のコレクション	牧野憲一(20)
同好会創立を祝して	坂元久米雄(21)
鹿児島昆虫同好会会則	(22)
編輯後記	(23)
昆虫関係雑誌	(5)(8)

は し が き

宇宙に於て最も神秘的な存在である生物の中での最も著しい存在
 である。その中でも、昆虫は、人類の生活に最も重要な存在である。昆虫は、
 地球上のあらゆる環境に生息し、その多様性と適応能力は、人類の生活に
 不可欠な存在である。昆虫の生態学は、人類の健康と福祉に深く関係する
 重要な学問である。昆虫の多様性を保全し、その生態系を維持することは、
 人類の持続可能な発展のために不可欠である。昆虫の生態学は、人類の
 健康と福祉に深く関係する重要な学問である。昆虫の多様性を保全し、
 その生態系を維持することは、人類の持続可能な発展のために不可欠である。
 昆虫の生態学は、人類の健康と福祉に深く関係する重要な学問である。

牧野



新 昇 足 に 当 り て

竹 村 芳 夫

終戦以来の生活難に我々はあまりにも物慾のみに窮々としてたゞ一個の生物として生命を繋ぐのみの浅ましい状態にあったが然しもういゝ加減動物の本能的な生活から脱して人間らしい精神的にゆとりのある生活に入つてよい、頂と考へられ然して物質的に未だ満足ゆかぬ我々を少しでも慰め楽しく生きらせる方法として再び我々は昔懐しい虫の世界に入り浸りたいと思ふ。それは汲めどもつきぬ心の泉として渴きまつた我々の心に潤ひを与へてくれやう。吾々生活に趣味の必要は理由はこゝにありう。

そこで我々は如何にして昆田を友として行くかいろいろの方法があらう。鼻向に學者として理論に應用に即ち純粹の科学的立場から或は又微妙な虫の世界を通じて大自然の真理の一端をも窺ひ知ることゆまからうし美的方面より虫の倦かぬ美しさを探究して美術的精神を涵養するこども又有意義であらう。そして副産物として身体健康品性の向上等いろいろの利益をわたらすものと思ふ。

昆虫に趣味を有するからといつて皆昆虫學者にはらばくてもいゝわけであるが従来に於ては往々目的を履き違へて素人が學者の領域に侵入し之に協力援助することは善しいこととある公行きよきは困つたものである。即ち名を心に馳せれば珍品を隠藏し産地をゴヨカし輕卒に新種等を発表したり等學界に妨害を及ぼすことと大いに心せねばならぬことと思ふ。もつとも多少の名譽心あればこそ研べ出拵けて珍稀の種類を求め努力する理くつてもあらうがそれは自分一人ではよくぞ突むものでなく一般に公開し或はその筋の專向家に委ねてこ

そ眞にその人の頂積となるもので初心者には特にこの轍を踏まぬ様心掛けて戴きたいものである。又同時に珍品獲りのみが昆虫採集ではない事我々の身近に極くありふれたもので生活史は勿論種名すら良く知られておはいもの等があることにも注意すべきで之は従来の昆虫図説書が大分珍奇美大の種の掲載に主刀が注がれ兎角極普通種微小種等が捨てられたり記載がお粗末だつたりし勝ちであつた事一つの基因かと思はれるのであるが普通種は知らずして珍種新種のみに先を覺えたか多し初心者の現れる結果と云はつた。かく申す筆者自身もその同類と大差なく生れるはじめて山村に生活し農業の眞似事をするにつけ種々の害虫郡に対する知識の貧弱さを今更の如く憤なく思ふ次第である。例へば園藝書に“地蚕”或は“ピンピン虫”等と名付けられてあるもの（恐らく筆者の推測の種はらんと思はる）は一見“ミスゲノミハムシ”様の黒色の微小種であるが茄科植物の苗に相当の被害を与ふる。茄子が結実し始めたら実の各部どこでも片つ端から嚙り取つて居る虫物が居る。一遍か食害する現場を抑へ得ばい残念と唖りめとを見れば直週報の何者か夜間に食ひ荒あのをはいかと思つたりして居るが田舎の人々は之を“カラツパドン”といふものの仕事とさめてしまつてゐる。それで被害を避けるためには一番生りの実を井戸の水神様に捧げると以後食はれはいと云ふのであるが之を聞いて田舎の人の淳朴さに微笑ましさを感ずると共に非科学的な多くのこれらの人々を持つ日本の現状を渺々残念に思つた。

我々に与へられた課題はいくらでも足もとに轉つてゐる。要は素人は素人なりの課題を選んで追究すればよいので生半かじりの素人や初心者が直に傳くはつて學者が持つてはばらばらことである。

我々はこの高尚なる趣味を心の糧として人格の向上を期すると共に非科学的な多数の同胞の昆虫に対する関心を少しでも深

め得たら又何をか言はんである。新なる出発に際し従来の弊と思はれる處につき愚見を申述る次才である。

— 以上 —

北支の食ひ「バツタ」に就いて

中華民国山西省にて

坂元久米雄

食ひバツタとは余りに大けさだが万物の靈長たる人様を食へたのだから驚くではないか。それは1943年の夏の事だつたが其の頂筆者は山西省聞喜県王茅鎮附近の警備中だつたが其の前年1942年は例年にならぬ凶作だつた。村民は皆青顔をして丁度去年の日本のそれと似たものだつた。そして年は明けて1943年今年こそはと皆必死になつて増産に努めた。此の年マカー又はホントオンと支那語で云ふが北支一帯を襲つたのだ。夕紅のマカーが眞黒は雲と化つて飛来して来た。そして作物といふ作物に嘴がへ降り付いてしまつた。道路も屋根の上も褐色に染らされてしまつた。而し村民のマカーに対する恐怖は入したものだつた。「神の便ひ」と云つてゐた。一部落はものゝ一時面むらひで食ひ盡さずしてしまつた。食ひ終ると次の地方へと移動して行くのだ。今年こそと血と汗の結晶の小麦も高粱も一葉の草と化つてしまつた。餓死者は續出し今日は演習場までの途中三人の餓死者を目撃した。明日も又見るだらうと人生の哀川を痛感した。そして餓死者には必ず例のマカー一杯眼と言はず口といはず……暮るで大ききはも虫に蟻がたかつて居る様だつた。鯨に山犬が多数襲つた形だつた。まさに食ひバツタだ。腹部は即ち穴があき穢物がはみ出

て居る。そこから部隊本部まで十軒ばかりあるのだが或る一日命令受領のため部隊本部まで出掛けに事があるがその途中（約十軒の行程だ）道路上に遺棄にはつて例のマカー君が腹這つてゐた。歩き出るとカア・カアと藪の中を駆け分けて行くのと同様の音を立て、飛散する。北海の映画で一面に凍つた海を炎船がざくざくと氷を割つて前進するのを見るがあれと似た風景だつた。音は聞えると見えて小銃をぶっぱなすと一陣の風とよつて飛散する。実際自分一人では気が悪くて歩けそうも無い位だ。本部真道で又々食ひバツタの現場を拝めた。十才ぐらいの子供だつたが顔は変形して犬の死骸を思はせた。後で村民の話聞いたのだが此の虫が訪れるのは40年ぶりだといふ話だ。村長はじめ皆が棒（先にハンカ4位のキレが付いてゐる）を持つてオーオーと追拂つて居る。何の効果も無いのだが。今でも思ひ出すがあの虫があれ程日本にまたとしたら日本そのものが亡くなるだらう。恐ろしい虫であつたものだ。

1948.2.1

..... 昆 虫 関 係 雑 誌

- | | | |
|-----------|-----------|--------|
| ● 昆虫世界 | 成物大宮町二丁目八 | 名和昆虫学会 |
| ● 生態昆虫 | 成物大宮町八丁目 | 昆虫研究会 |
| ● 虫・自然 | 成物大宮町八丁目 | 昆虫研究会 |
| ● 越後昆虫同好会 | 長岡市南町 | 野平安太郎 |

● 昆虫の思ひで

ニ高女 谷口 勇

昆虫について稿を求められましたが大元来特にコレクションを大いにやるでもなく又研究意欲を強く働かせても居ないので思ひ出すまゝに書いて見ます。

I 蚊について

もと鹿児島博物学会で郷土博物時報といふ村園紙が発行されておりました。その昭和九年七月号に蚊の発生飼育の事や吸血などは書いて書いておりましたがもう随分昔のことにはなつてしまつておりました。母校でもこの夏休み生徒達が非常によく蚊の飼育を観察したものがニ三ありました。動物の生きてゐる姿により実験的に観察を深めることは楽しみはものです。鹿児島では五月には蚊が出て十一月頃まで盛んに活動してほとんど半永久的の苦しみに会ふわけです。殊にフィラリヤとかマラリヤとか種々の予防医学的の見地からも蚊の駆除といふことは極めて大事なことである。私の弟がグアム島から復員しての話によつてトラツクに居た頃は蚊とアユにとつても攻められたがグアムに移つてからは蚊の一匹もゐなかつた由で如何にアメリカの衛生施設が仰々といつてゐるか分かる。この夏は鹿児島でも幸い分蚊が出てはやるが一回二回は家のまはりや近くの水溜りに石油をまいたりしたものだつた。はる程石油をまいた下木の窓にはボーフラが数知れず死んでゐて油の効果のあることを十分示してゐるがはるばる蚊の数は減じなかつた。油をまくにも経済的に思ふ程に出来はいい。何とかたやすい方法で蚊の退治が出来たらと思ふ。勿論二の中の上空では何回もD. D. T.の撒布もあつたけれど。

2. アリマキ

茄子にありまきがついてゐた。やつと櫻島の灰の害からまわりそだてたところにアリマキの発生である。食糧危険とインフレ

に對抗する百本の茄子畝に夕方出ては葉うらのアリマキをばら
いおとして見たり本灰をぬつて見たり比較して見たりがどちらも
結局習朝には又アリマキははい上つてゐる。やはり指先で一フ
ツつぶして行くのが薬をばらぬ最も効果ある駆除法である。

これはおつと以前の事だがホウライサクの若い莖にアリマ
キが一ぱいついてゐた。胎生中のものをじつと見てみたら次の胎
生まで十分向かへつた。生れたアリマキは親より小さいが形はや
はり親どつくりであつたと記憶してゐる。こゝはアリマキをスラ
イドの上でつぶして顕微鏡で見ると幼生の数個がその体内に見
られた。

3. 蜜 蜂

私がまだ小学校の時分父が野生の蜜蜂を捕えて来て養つてゐ
た。蜜蜂が出入口を忙がしげに出入りしてゐる様子や蜜をしぼつ
た事などは少しおぼえてゐる。末吉に居た頃イタリアン種とか言
うのを十箱ぐらい飼つてあるのを見せてもらつたり、ミゲソウ
のたんぼを前に見おろした日当りの良い所で、そこのおかさんか
ら色々興味ある話を聞いたりしたものだ。学校で養蜂して見よ
うと同僚と何回か話してゐるが一向それが出来ず。内田享先
生でしたか「蜜蜂と花時計」といふ著のあるのは…手に入れて
讀んで見たいと思ふ。やはり北大より出てゐる雑誌「生物」に
はあちこちに昆虫の記事が出てゐる。芥明といふ12月号には
虱除けクリームの芥明がほしいと言つたのが出てゐます。昆虫
界も春をひかえてはいよいよにまやかです。

4. どなたか教へて下さいませんか…

生物に大へん興味を持つてゐる或る生徒から染色体を实地に
見たいとの相談を受けた事がある。ユスリカの唾腺とかにあ
る細胞の染色体が大きくて簡明に見られるとの事を何かで見
ました。戦災で本も丸焼けになつたし不自由なことです。どなた
かこれに関する文献か又はその操作處理ほど教へていただけま

せんでしょうか……

表紙 タワガタモドキ

Tritemoloma davidi formosana Kriesche の解説

台湾喪矢に依り本報目録より姿をけした苗本邦に於ける唯一の擬鍬形虫科 *Tritenotomidae* に属するものである。

体長凡そ50-60mm で体は黒色にして灰黄色の短毛を鬣生す。觸角は長く11節よりなり先端部3節は鋸齒状をなす。解角長き為天牛虫科のものと誤りやすい。大腿は短く太く頑丈なり。

眼は幅広く前縁曲る胸部は側縁に多少尖歯を有し基部に於ては翅鞘より幅が多少広い。

前肢及後肢の基部は横に長く前肢基部高は後方に於て開く跗節は稍々圓筒形を呈する。

後肢を除き各跗節の下面先端に毛の集團を裝ふ。後胸枝の前側枝は幅廣く両側縁は互に平行する。

分布 --- 台湾

台北附近烏来温泉附近は五六月頃屢々出現し日中空高く飛翔するので見受ると云われるも稀なり。

… 関係雑誌 …

★ 東北昆虫学会会報 岩手県二戸郡浄法寺町字細田

東北昆虫学会

★ 松虫

札幌市南一条西四丁目

北方出版社

★ 採集と飼育

東京都中央区録産面四ノ一

内田老鶴園



虫への思ひ

御園智生

私は入隊してすぐ牡丹江省綏西の山深三道崗に行つてそこで軍隊生活三年を過した。敵塞の下三十度あの寒風の僻地にお四月とほり暖い風が吹き来るとまぶツツジがそして夕葉が鈴蘭がタンポポがと次々に咲き出す。それは百花爛漫鹿児島附近ではちよつと見り水ぬ有様である。それを求めてとび過る北方系の私等が標本以外に見た事のない蝶類を見て軍隊である私はそれをなぐめはばら取り得ず残念スにいつ迄もその行へを見てほ一つとしてゐると「コラーぼやつとするな」と怒鳴られはつと思ふ事が度々であつた。何月頃であつたかムツボシタマを獲つた時又演習中にコハナムケの黒色系を獲つた時等それを捨てたり手箱の中にもよつて居て三年兵から怒られしむしぶと捨ててしまつた事があつた。中支に行つて長沙附近衡陽附近で花々たる瘴瘴の中に「アゲハ」がまるで内世のモニシロテフの如く約百頭も飛び過る様は今思ひ出して何とも言へぬ美しい様子を見て一頭ぐらい標本にして持つて歸りたいなと思ふ事が度々であつた。今度私は復員して城山を見た時よお思出したのはべつぱり採集に行つて獲物を取つた場所であつた。あそこに何がよく取れたなあはあの木の所によくと小な等と採集の思ひ出はつきはい。また一辺も行く機会を得ばいけ小じも冷水の採集世キリシマ…と早く採集に行き又昔の通り標本を集め様と思つてゐた所幸に同好諸子が幸に復員之れでそれぞれ昔の虫友を呼ばれて同好会を組織せし鹿児島鹿田会之主と成りたり再び昔の様に連絡ある採集が出来様になつた事を良心より嬉んで居ります。

いよいよ暖くはり採集時季が来たり諸子の活躍を期待してやまはり次々とありませう。

終り

同好会結成に当り

鹿児島市下田町121 牧野 憲一

終戦以来早一年半余を経ました。今日幾多の先輩同好者大敗戦の悪条件にも拘らぬ無事復員を歸還スルヨシした事を小生始の同好者一同衷心より衷心傍の苦斗を感謝申し上げると共に此同慶に堪へない次第であります。

尚敗戦の一大変事以来生活の不安定道義の頽弊にも拘らぬかくも早期に同好会の発足を見ました事は偏へに竹村松田坂元氏の先輩で熱心なる夢起人謡子の佛輪技師両方の賜と本心より清藤氏の意を表すると共に斯道の強カなる發展を希望して止みません。小生としましても微カはた一層の研究を積み同好会の發展に協力する覚悟を強めるものであります。元来浅学未熟者故何等のし得はいるのぞすから何分の一指等も輕微被下ん事を許さず致します。初て

採集はくして昆虫の研究は成り立つたのではないと云ふ事は謡子の最も良く知られる所であります。吾人は吾虫種の蒐集に取りかゝり種類を系統立て産卵孵化の虫類成虫とその生態の結合説明にとりかゝりおぼびりません。過去に於きましての採集は非常に熱心にもかゝり強走的に行はれて居りました。そしてその成果も驚愕に値ひまるものがありました。但し今回同好会結成に際しまして過去の採集に就いては批判の線を下すべきではないでしょうか。何故かと申しますと過去の採集には封建性の濃厚はしかる社善的な気風があり昆虫研究上は勿論命曰云わぬる民主的の言葉からしても不合理の点が多々ある事を認め得られるからであります。

そこでその缺欠として何を指摘し改善しやうとするのかと申しますと私はまず採集世の稀少採集世の秘密種目に於ける偏癖等を取り上げるのがです。採集採集世としましては城山冷水武

同郡山霧島にのみ限定されて居りました。成る程以上の地区が最も効果的かもしれませんが之等の地区に限定してあるといふ事は虫類の種別に於ても限定してあるのではなからうか。といふのは地域により特殊な植物に特産的な昆虫が居るからであります。吾々は事情のゆるす限り未採集の地にどしどし探究の鈴先をむける必要が有ります。そしてあらゆる種目に真り採集しなげればなりませぬ。種目に対して偏見を持つるといふ事は人間が各々その趣味を異にする如く当然の事でありませぬ昆虫の研究をする以上ひとすうに甲虫蝶類のみに専つては不可なりと思ひます。

ある期間においてはやほり全般に亘る研究を行ひその後自己の最も興味ある科目に傾注しなげればなりませぬ。範圍の極太種目の普遍的な採集により從來よりより以上の効果を齎め得らるるのほ必然の事でありませぬ此處でニ産出の採集地の秘密性について少々述べて見ませう。元來採集により筆記録簿種簿を得たとしても漢とした採集地は教へても最も重要な事項に立ち入りなしては堅く口を閉して居たかに思はれませぬ。この状態にありませぬは同好者自身獨立状態におち入り自分一個人の爲の趣味採集にしかなりませぬし又同好会設立の趣旨に及するものとしな云われませぬ

採集結果を己憚なく発表する事は以上の跋矣を修正改善し得るものであります。採集日時場所植物その他あらゆる附近の状態をくほしく発表し同好者相互の親睦協力を計るべく努めるべきであります。

以上取り止めのない事をくどくどしく書き立て諸先輩の方には失礼なものであります。小生の自己反省の一端として傍読み下さる様作願ひ致しますと共に間違も多々ある事と思ひますから其の寛容叙なく傍に責下され。

終り

復員後緑ノ城山ニ誘レテ

内 貞雄

大約ニ歳振りノ登山 之ヨリ先旧アマケユア俱ラ部員タル森永
トスシ振りノ対面ニ別居ノ應答現況ニカク檀シイ限リグツタ
例ニ依ツテ正登山道ヲ顔ニ汗シテ採集ニカカル。登山入口ノ檀
ノ倒木ヨリ「キノコムシ採集白斑田殺ノ先々月内兄ノ採集シタト
ノ舌丁虫ハ其ノ姿ヲ見ズ。附近ハ昨年末ノ空襲騒ギテ荒廢シ盡
シテ曾遊ノ傍ハ更ニ無イ。曾テ採集シタト「ヤツテ」ノ木ニハ
「センノカミキリ」ハ遂ニ管見シ得ズ。檀シテ樹液ハ少イソシ
テ不徳義ヲ程虫影ヲ見ナシ。例木モ乾キ過ギテ感深ク食糧難ノ
折柄登山者ハニミヲ敷ハル己。ベーツノ稗息世ニ一纏ノ望ミヲ
カケテ頭ヲ没スル往年ノ採集同道ヲ蜘蛛ノ巣ヲ拵ヒツツ進ムバ
未ダシノ感深キモ頭羽等ノバラバラモ管見サレ今日未八月ノ好
時期ガ期待サレル。頂上ヲ極メ戦死ノ全貌ヲ眼下ニ睥睨スレバ
雲無量一衣帯水ノ錦江湾ハ先ラ千石ノ一大美湖ノ如ク静カナル
事鏡ノ如ク一円ニ遊曳ノ引揚船ハ「オモケマ」ノ如ク晴天ニ打テ輝
ツテ雄大ニ聳峙セル桜島ト相對シテ一大偉麗ヲ呈シテ大都會見
島ニ層一層ノ価値ヲ加ヘシベシ由縁ノ幸念頭ニ無シ。眼下ノ駒
込市街ハ牛道ノ復興アリヲ示シテ心細イ。三十分休憩配給飯
ノ腹ハハツ盛り下山ヲ決意途ヲ別ニトル。何ノ不ゲツタカソノ
樹液ヨリネストクハグダ五匹採集。聊ク快感ヲ味フ。大木ノ樹
液ニテアヲカナブンヨツボシケシキスニ採集其ノ前カバ色ノ天
牛ノ飛翔スルヲ見ルモ高所ノ鳥採集ニ至ラズ。往々コバネ天牛
ノ採レル日イ花ノ唯一ノ暎咲キノ花ニヨリ内兄ヨス分トヲ採集
又樹液ニ動キ廻ツテ居ダネブトクハグダ「マ」ノコギリクハグダ♀
ヲ見ルモニ高所ノタメ残念ナガラ見送りノ形其ノ儘無採集壇
内ニ一息入レ歸途工事局ノ大先輩及元氏訪向初対面接雑談ニ十
分。スシ振りノ登山陽焼ケ足痛等々、食糧難ノ折柄コトゴトク

一驚物痛感ヲシハ動クベカラズ。シカシ虫ノ囁キニハ？ 而シテ企テ欲シキハ霧島登峯己

21年7月28日 11時—1時半

同好相寄る。蟲の「アマチュア組樂部」に共に喜び、共に悲しんだ我々が、再び戦後動乱の中に相寄るといふ事は、
はなれと思ふ。
はる舎に終らせを基念とし、この行を置きたい。
ちらかとリへば



雑感

坂上勝己

こゝ以上の喜び
私はこの舎を單
たかない。友情
の上に研究と実
我々は今までど
感懐に重きを置

いた。趣味の昆虫であつた。趣味とは小は福里先生が「金と暇がほけ小は出来ぬものだ」といふのを覚えて居るが金と暇のはいものは如何したらいいのだらうか。今の私には昆虫を見るその事さへ一種のたのしみでさへあり天牛とか蝶とか云ふ言葉を聞くさへ興味が起こる。

私はこんな村舎を作るも小だけでこの金の出来たのを非常に喜こんでゐる次才であります。

北支の人気者

「たまおしこがね」観察記

中華民国山西省にて 坂元久米雄

七年間の在北支中最も印象に残つてゐるのは「タマオシコグネ」だ。1944年2月初年兵教育の休憩中、その道は山麓で牛糞が一杯散らばつてゐた。道路の両側は小高くはつてゐて畝に種いてゐた。その畝の上へ真黒い顔したこがね君が糞を押し上げ稼としてゐるのだ。彼等は大概二人づゝ小た。多分夫婦であらう。一人は前から一人は後からエッサエッサとまるまると小形の「タンク」を連像させる。その歩き格好が亦格別。珍妙なのだ。並立互しての作業だから面白い。一冊目は駄目、二冊目も駄目、糞と一踏になつて時には糞の下じまになつてころけ落ちて来る。その時二人は互に顔を見合はす「どうもあかんわ」とでも云ひたそう。三冊目の前進が始る。距離は約一米傾斜は45度位仰々の難関らしい。鉢巻を締め道はワッシワッシ又転がつて来る見てゐて可愛想になつて来る。加勢してやりたいが而し手でも觸れようものなら大変だ。とつと観察を続ける。五秒ぐらゐ休んで再び作業開始、今度は行程を少し変へて前進する。ごろつごろつと丸い糞が坂を登つて行く二人とも慎重は構へた。もうあと一息。兵隊の一人がオツエん其処であごを出せばと應えんす。『不ケイ』と云はぬばかりでトリトリと唇無し刀が奔揮エル。或る兵隊はラジオの放送の真似をしてゐる。黒君大いに頑ばつて居りまゝ糞はぐんぐん上の方へ登つて行きますよ、もう一息彼等は二人は今命がけの奮闘中ですよ、糞が右の方へ傾きました、それを離さじと黒君しつかりしがみついて頑ばつて居ります。お、どうとう押し上げました。両君共汗がどろどろです、マルテ人間共がア見ると云はぬばかりの顔付をしてゐます。遂に四冊目で成功したのだ。筆者は思はぬかたおさのんだ。大陸の真赤な夕日が沈みかけてゐる。

思へば愉快な観察だつた。

第 四 章 第 三 節

懐しき採集日記より

本吉 健 作

昭和十七年四月二十六日（日曜日）

一午前 九時頃例の如くM君の家に誘ひに去た。通りへ去るとふと蝶を拜見した。水溜りに静止してゐる。僕が近寄るとパツと舞ひ上り又水溜りの側に止つた。すかさず帽子でかぶせた。「中折階だ」容易に中の蝶を捕へる事が出来な。完全に袋の中のネズミ舌蝶である。道路で大の男が帽子を地にかぶせて餌案をしてゐるのである。やがて側方を待たせ上手に入ル様とした。瞬間王は得たりと蝶はすかさず逃げ去り一目散に大空へ舞ひ上つた。あ——無情！、すかさず上つてM君の家まで逃げ行く様に急いだ、ふしり哉「ミカドアゲハ」必ず採集せねばならぬと意気込んだのだ。

二午台 M君が訪れた。又A君が来訪したので一緒に城山へ遊びがてら採集に主幹けた。神社には敷用令で敷用にはつた男女多数が祈願の為集合してゐた。神社に参拜今日の收穫を祈つた。登山口へ近づくとはや春をしらす舌春の云り行くを歡くが如く蒼蟬は鳴いてゐる。「クロアゲハ」、「ナガサキアゲハ」と次から次へ躊躇の花に訪れてゐる。残念乍ら高いので只ぼう然と眺めてゐるのみだ。一昨暮の雨で他の花は無残に花びらを地に落してただ青々とした新緑に化してゐる。城山の裏に去た。其の昔大正天皇が此處に登られて眺めにほつた所にお手掛松がある。その傍に立つて眺めて見た。

第 四 章 第 三 節

「鹿兒島昆虫同好会結成に当り」

佐々木 博

今の度鹿兒島昆虫同好会の結成された事は我々同好者の爲に非常に喜ばしい事である。終戦後日尚ほ浅くして今日の結成を見た事は内容そのものは整つてゐなくとも唯同好者の集りとして過玉の事を本將來の希望を語り合ふ。これだけでも現在は満足な事であると思ふ。

去る十二月二十二日発起者が集まり種々協議を行はつた際竹村氏松田氏等先輩各位と面會出来た事は非常に残念である。聞けば時間の相違の爲後先になつた由誠に残念な事であつた。しかしそれでも話は次々と昆虫談に採集談に霧島の事に花を咲かせ時のたつのも忘れて楽しく半日をすごした。振り返つて見るに今日の会を組織するまでには相當の苦難があつた。

昭和七年頃母校鹿兒島商業學校に博物アマチュア俱う部なるものが創立された。我々は之に加はり大いに活躍した。我々にとつて實に貴重なる思ふべきである。しかしそれは永く續けられなかつた。何故はそれは卒業といふ不変事が我々を學校から引離したのである。卒業として渡瀧浦州に行つたが会社が航空機製造の爲に思ふ様に暇も無く遂にあの侵略戦争へと捲り込まれたのである。其の間在學當時先輩諸氏や同好の志ある者と語り合ひ鹿兒島昆虫同好会なるものをつくらうと計畫した事もおつたが校務に忙しかつて遂に流産した。戦時中は軍隊生活のため全々採集の行なはれなかつた。政府や軍のとりことなりあらゆるものを犠牲にして戦争に邁進した自分の生活のすべてを、學問を趣味を、しかし結果はどうであつたらうか。戦やぶれて故郷の驕についた時の光景は是が故郷の街が冷たい風窟窟と化した街ふりしめる櫻島の灰何所をまいても焼野原、いわんや家は焼け最も大切な標本までも焼かれてゐるではまいか。せめてもと思つた標

創刊号ヲ祝シテ

内：定雄

趨起ス昭和十六年十二月八日新報ニテ大東亞戦争ナル世變停略
野望ノ禍ヲ軍口主義政策ノ爆発ハ遂ニ昭和二十年八月十五日
大日本ノ敗戦ト云フ冷敷ナル事實トシテ終末ヲ告ゲ述リ来ツテ
一年有半アラユル軍口主義的色彩ヲ掃拭シツ、古リリテ民主
主義ヲ証致シツツ漸進シツ、アリマス。昨今食生活は香ノシク
ナルニ愁眉ヲ開キ混沌タル社会思想モ一応安定貞ニ遂着シタカ
ノ感ヲ抱カシメツ、アリマス。

時宛モ先賢ノ方々ヨリ當テノアマケユア候ラスノ詔ヲ温メなク
果一般昆虫ヲ指導研究及ビ趣味ノ普及ヲ図ルベクシカシテ之ガ
永遠ニ生長スルシメントノ極メテ殊勝ナル志趣旨ノ下ニ創
刊号ヲ編纂カル、由仄爾シ表心ヨリ之ガ御意カニ感謝シ滿腔ノ
賛意ヲ表スルト共ニ至ツテ至驗ノ浅信デハアリマスカ之ガ未席
ニ侍ラズテ數クシテ期合ノ為ニ聊カナリトモ微カク選クシタ
イト思者ス知次オデアリマス。勿論至驗モ致ツテ浅ク証ノ小
生ノ幸トテ至數御指導ニ親達下サイマス様状ヲ御報ニ申上マ
ス。燦々夕照ニ月ノ太陽ヲ浴ビテ固カテ植物性ノ馨香ニ幽ロウ
ツ好ヲ纏リ行咲ス乱レル花ニニホツトヲ振ヒ或ハ露齒踏イ樹海
ニ幽邃ノ涼味ヲ清暖ニツツ虫影ヲ道ニ或ハひぐらしノ鳴ク絶
世ノ妙音ニ恍惚トナリアラユル餘念ヲ打忘レテ自然ノ備スナル
相痛方ニ酔ヒ、ソシテ彷徨ヲ持趣味ノ醍醐味ハ至極ニ致ツテ極カ
無クシテ歸スルヲ期カルガ故ニ私ヲシテ執着ノ桎梏ニ引ズリ込
ム魅カアル所以ト一人合衆ハ由追フ私ノ本然ノ姿ヲ肯定スル
モノデアリマス。

卒業ト同時ニ私ガ渡南ヲタル理由ノ一半モ此ノ演説(註)ニ起
因スルモノデアリマス。ソシテ漸方トハ互ニ在ラ種ヲ行限ラレ
タル世談ノ極ク反相的ナル理由相ヲ窺ヒ釋クステモ、セメテモノ
幸ト置ツテ尾ル次オデアリマス。

トマレ今回アラユル置換件ヲ克服シテ儘カ將戰後一年有半ニシテ該機關ヲ再行ノ運ビトナリマシタ事ハ其ノ御心算ニ付シ重キ事莫山ヨリ深謝スルト共ニ永遠ノ民主主義ヲ確立スル如ク永遠ノ健康發展ヲラセムヘク健全且基礎ナル警シイ集ヒニモリ立テテ種々トシテ望ミシツツ且ニ不慮ナル野望ヲ未ダフアールヲ要ス

昭和21.12.15.記 事務所

終戦後ノコレクション

一 野 望

筆者ハ終戦直後熊本ヨリ復員シテ来マシタガ時フテ同モナク反ニマシタ所屬ノ中デ(メスアカムラサキ)ノ雄ヲニ阻ミ奪シマシタ。一回ハ戰鬥機ヲ種ヘ捕ヘヨウト進ヒマハシマシタガ終ニ逃クシテシマヒマシタ。アノ飛翔スル機ヲタル機ヲ追フ時大ニキク呼吸スルカノ様ナ庄上ノ翼ヲ捕ヘヨウトスル時ノ瞬間ニルハズシテ奪持ハ丁度ハ孫前城山ニ高キ程ニ味方ツタ員ヲ奪ニツノマメ味ニ起シタ事ノデシタ。ソシテ種々フタメイテ天機不ク舞ヒ上ル機ヲ見送リナガラ「ヨシ今年カラ西ニ採集シ次ニハ歸任シタ時ノ數科ノマメヲ捕ツテ見セルト」ト云ニ細言シマシタ。

廣ケソノ年ハ何家ノ意昨年ハ食糧難ニ依ル気力ナキタノ處ノ難ニ採集モ出基ズ今年コソハトマタラニ快意スルバカリノ難態ヲ入。冗談ハサチオキ昨年中三由國採集シタソノ綜合結果ヲ發表スル事ニシマセウ。

五六日ノ花ノ時期ニ城山ニ行ツタノデスガ發表スルダケノ資料ハナク出カ届カツタト云フ事ダケト小学校一年生ノ経リ方ニシカ備種ト事ニテスカラソノツモリデ...

先少熊口神社前ノ樓ノ機本ヲ至集ト入盒ニ採シタノデスガ三ハ

ト思ハレルモノハ勿論極ク普通種サヘモ居リマセンデシタ。僅
方ナタ次ノ種ヲ見ル事ニシテ歩ヲ進メタノデスガ其族ニハ僅ク
ニニ三種ノ(キノゴムシ)ガ居タゲテデシタ。從來ハコノ種
例種ニハコク(ヤマトタマ・ヒシモシナカタマ・ケマキナカタ
マ)等居タモノダト邊程シナガラ登山シヨウトシタ其ノ隣
一ント少サイ(タマムシ)ガ飛ンデ来テホニトマリマシタ。由
ケ来ニトマツタ時「シメタ」ト思ツタ時キガ虫ヲ捕ヘタ時ハ三
着ガ一語デシタ。驚クテハアリマセンク、ソノ視力ノ強サ其ノ
捕獲ノ敏捷サハ。一寸筆者ノミカ俚イ様ニ見エマスカコノ視力
聴力致在ナル行動コソ吾々愛好者ノ最モ誇リトスベキモノデシ
ヨウ。何トモ言ヘヌホクホクシタ。氣持テ種別ヲ改メテミマシタ
ラ何トソレハ(シラホシナカタマ *Agrilus ajax Kerremans*)
or (*Agrilus* sp.) (麻商アマケユア俱樂部新聞誌 No.3 = 15 園紙
No.4 = 西村氏ノ發表セルモノ)デ兩匹驚キマシタ。又何カ飛ン
デ来タイモノカト待ツテ居リマシタガ無駄デシタ。

最初ノ獲物ニ氣ヲ良クシテ足ドリ輕ク登リマシタガ D. D. T. 撒布
ノ爲カ(モシロテウ)サヘモ姿ヲ見セマセンデシタ。ソレカ
ラ頂上マテ何一ツ得ナイテ頂上ニ到リマシタ。イナゴ園入口ノ
粟ノ木ハ今ヨ盛リト咲キ亂シ群ヲ様々香リヲ振りマイテ居リマ
シタ。スカサマ木ガ揺レヌ様充分ナ深重サテ花上ニ於ケル何百
トモシレ又虫類ノ響等ヲ費見ナガラ…… シカシ驚ク事ニ
ハ(ハナムグリ)ノ普通種ト(キイロミヤマ *Cremicopsis by-*
pacuta Marshall) 蜂・アブ・類ノ少々ガ居ルノミテ天牛キ丁虫
ノ姿ハ一頭モ見エマセンデシタ。草牟田ノ粟ノ花デハトクミナ
ガラ行ツテ見マシタガ此所モ駄目デクロトラ天牛、タケトラ天牛
ヲ得タノミデシタ。何故今年ハ斯クモ虫類ガ居ナイノオ戦争ニ
ヨル樹木ノ乱伐荒廢シタタメカ、ソレモナイトモ云ヘマセンガ
ヤハリ D. D. T. 撒布ノ爲デハナイデシヨウカ。コノ時程アメリカ
ガ憎クツタ事ハアリマセン。

最後 = 一言

現在各地ノ樹木ノ乱伐ハ甚ク多クイモノガアリマスガ城山公園地
ハ煤塵ニヨリ倒木アリ枯木アル及至相当ノ草木ガ繁殖シテ定リ
マスカラ今年ハ一トハ般ヲ利用シテハ城山、一日中休ミノ時ハ高
千穂郡部ヘト運レテ行コウデハアリマセンク。ソシテ又ア
城山ノ図録ヲソレカラ一般ノ図録ニ……又博物館ヲ……

終り

戦は終わった。而し復員して其
如に展用マ小臣政卿の姿は余

りにカ無悔なものだつた。
上陸前船中での空想は無
茶苦茶に破壊された。あ
の標本は、そこからあの
本はと次から次へ高鳴る
胸を押して上陸したのだ
つたが……。西麻生島
岬の岬頭にほう然と佇ぶ
んだ筆着の姿を想像する。
而し今更風習は口におま
じ總べては「運命」と諦
めるより仕確はあるまい。
世間ではや小政府がどう
のや小軍用がどうのとぞ
小ばかりの意口を叩いて
るが果してその為ばかりで
はあるまい。「運命」のニ字に
片づけてしまふのが吾々の趣味
に生きたる者の争いは考へでは

はからうか。前途は遠慮だ。

何れか一年生からやり直し

で新しく進もうではない
か。幸ひに新界の積役達
は竹村氏を始めとしてお
術で元氣だ。只象原君が
病死したのは憂々も残念
だが彼も今頃草叢の陰で
本金の創立を数度おを以
て見守つて居る事だらう。
茲に同好金の創立を祝す
と共に創設に当り御協力
下す小し福里氏海口氏並
びに熱心なる研録者佐々
木博氏牧野憲一氏の方々
に対し感謝の意を表す。

同好会創立を祝して

坂元久米雄



編 輯 後 記

原稿募集に比し併刊の遅小ました事を深くおわび申し上げます。創刊号だけに祝詞・感想の文で大半を終りました事は止むを得ない事と思ひます。次号より生徒研究発表及同好者諸君の研究発表・観察採集記等多彩な投稿を依頼致します。今回は部数も少く編輯上の不満は真が多ク有る事と思ひますが次回より部数を増し内容も充実したものを出す様努力致します。又引續き原稿を募集しますから極力御援助下さい。

—— 鹿 児 島 昆 虫 同 好 会 会 則 ——

- 名稱 本会は鹿児島昆虫同好会と稱す。
- 組織 本会は昆虫同好者及関係者を以て組織す。
- 目的 本会は昆虫趣味の普及・初心者への指導を目的とす。

本 会 の 事 業

- 。本会は機関誌「虫の友」を発行す。
- 。採集会の実施
- 。不明種の鑑定
- 。適時集会・懇談会を開く。
- 。鹿児島県昆虫図録の作成。
- 。将来の希望として博物館の建設。
- 。本会には会費一月金拾円を収むるものとす。